

09/9/13

東 京 新 聞

一民主、300議席超す勢  
い」(8月23日)「民主308  
政権交代」(31日)とな  
った今、各省の予算執行に一  
時停止などが出ている。内容  
の精査も必要であるが、こ  
と霞が関が言う「教育」とは  
何であろうか。

教育は国家百年の計である  
う(1日特報面)お金なけれ  
ば学べない国」。いわゆる  
「永田町埋蔵金」やバラまき  
といわれても致し方ないよう  
な財政支出の一方、国家が破  
産状態であることをどれだけ  
の人が認識しているのか。

教育への助成支出(対GDP  
P比)はOECD加盟二十八  
カ国中、最下位だったことは  
有名な話。資源のない日本が  
人材に頼るのは昔も今も同じ  
であろう。高校まではほぼ義  
務教育化されている今日の日  
本社会で、そこへの投資もさ  
ることながら、大学教  
育、生涯教育など社会と  
直結する意味で、メディ  
アの今日的話題になるこ  
とが少なくなってきた。

そこで、「博士課程の  
定員削減 必要?」(朝  
日9月7日教育面)のよ  
うな教育の質を問う記事  
が本紙に少ないのが気になる。  
例えば「私大47%」入試  
に問題」(8月21日夕刊)  
や「中学校テストで支持政党  
尋ねる」(30日社会面)のよ  
うに、発表ものやストレート  
記事でカバーしてはいるが、  
教育問題の本質に入り込むよ  
うな鋭さに欠ける。

後者については、本紙が約  
二カ月半前、都内の中学校で  
総選挙に出馬しそうな候補者

## 教育は国家百年の計



鈴木 雄雅

を呼んで立会演説会を開き、  
模擬投票を予定したが中止に  
追い込まれたことを、トップ  
記事で流したこととも関連す  
るニュースである。支持政党  
やその理由を尋ねることで、  
中学生が時事問題や政治に関  
心をもってもらうことを狙っ  
た授業計画を「生徒の思想信  
条に立ち入ることになり、配  
慮に欠けた設問」とのコメン  
トで終わらせるのがジャーナ  
リズムなのであるだろうか。

教育者が教育、学ぶこ  
とを問うのが学問。それがい  
つの間にか「支援する(サポ  
ート)」「学習する(ラー  
ン)」「実習する(トレーニング)」、  
効率がよいこと、  
研究費を取ってやること、  
いい教育だと思ひ込むようにな  
った全体的状況を生み出して  
きたものは何なのか。

もちろん、教育においてそ  
れらを全否定しているわ  
けではない。多様性は必  
要である。だが、大学の  
みならず、教育の質はま  
すます悪い環境に陥って  
いるにもかかわらず、実  
はその事実をつつす知  
っているにもかかわらず、  
ず、貴重な税金を何のた  
めに使うかより、どう使って  
支出するかに長けた能力を使  
うのは、公僕としては無駄な  
出費ではないだろうか。

教育は国家百年の計。それ  
は百年来の未曾有の経済危機  
(この言葉の危うさをメディ  
アは追求もせず、垂れ流し)  
よりも深刻だ。

(上智大学教授)  
※この批評は最終版を基に  
しています。

## 新聞を 読んで